

肺癌に対する WT1 ペプチド免疫療法の開発に関する研究

研究分担者 熊ノ郷 淳 大阪大学 教授

研究要旨：本事業は、脈管侵襲を伴う病理病期 IA 期及び IB / II 期の WT1 抗原発現陽性の非小細胞肺癌完全切除患者を対象に、WT1 ペプチドワクチン (WT4869) の推奨用量を検討することを目的として第 I 相多施設共同非盲検試験を実施することを目的としているが、本分担研究においては、肺癌術後補助療法としての WT1 ペプチド免疫療法における WT1 免疫応答の解析のための解析基盤の確立を行った。

A. 研究目的

脈管侵襲を伴う病理病期 IA 期及び IB / II 期の WT1 抗原発現陽性の非小細胞肺癌完全切除患者を対象に、WT1 ペプチドワクチン (WT4869) の推奨用量を検討することを目的として第 I 相多施設共同非盲検試験を実施する。第 I 相部で決定した WT4869 の推奨用量の下で 2 年無再発生存割合を主要評価項目としてプラセボワクチンとの比較で WT4869 の有用性について探索的に検討することを目的として第 II 相多施設共同二重盲検ランダム化比較試験を実施し、臨床第 III 相試験 (治験) の実施可能性を検討する。

B. 研究方法と結果

肺癌術後補助療法としての WT1 ペプチド免疫療法における WT1 免疫応答の解析のための解析基盤の確立を行った。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kumanogoh A and Kikutani H. **Nature Reviews Immunolog** 13:802. 2013.
2. Nojima S et al. **Nature communications.**;4:1406. 2013.
3. Jin Y et al., Statins Decrease Lung Inflammation in Mice by Upregulating Tetraspanin CD9 in Macrophages. **PloS one.** 8(9):e73706. 2013.
4. Minami T et al. **Scientific reports.** 3:2669. 2013.
- 5 Nishino K et al., **Lung cancer.** 82(2):299-304. 2013.
6. He P et al., **FEBS open bio.** 3:225-30. 2013.